

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072300229
法人名	有限会社 彩華舎
事業所名	グループホーム さいか
所在地	群馬県多野郡吉井町 669番地 (電話) 027-387-5187

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5
訪問調査日	平成 19年 9月 7日

## 【情報提供票より】(19年 4月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	利用定員数計 18 人 常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.7

### (2) 建物概要

建物構造	(木造) 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.65歳	最低	79歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立藤岡総合病院 田路クリニック あらい歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者のホームに対する思いは深く、会議や申し送り時に理念について職員と話し合い、その思いを共有しながら日々の支援に取り組んでいる。「その人らしさ」を大切にされた職員等の対応が如何に行き届いているか、訪問中の利用者の自由でイキイキとした姿から伺い知る事が出来る。利用者の居室作りにも配慮が見られ、その人の好みや生活歴等を大切にして、利用者が居心地良く過ごせるような工夫が見られる。又利用者の日頃の言動を細かく観察し、言葉の一つひとつを詳細に記録して、それ等を介護計画に反映、更に支援につなげている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念を玄関・事務所・食堂等の目に付き易い所に掲示している。介護計画の家族の確認についても改善し実施している。市町村との連携は、役場の関係者と話し合う機会が少なく、現在は上手く取れていない。今後は出来るだけ役場に出向いたり、運営推進会議等を通して連携に取り組む考えである。近隣との交流については、利用者がおはぎを作って近隣に届けて馴染みの関係を作る努力をしたり、利用者が縫った雑巾を近日に地域の小学校に届ける予定で、改善に向けて努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連事項:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者と一部職員で作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーの諸事情により、これまでに会議の開催は1回で、内容は事業所からのホームの現状報告とイベント時の家族の交流についての話し合い等である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的にホーム便りを発行、来訪時に日頃の暮らしぶりを報告しながら、気軽に話しの出来る雰囲気を作り、家族の意見・要望・苦情を聞いたり、アンケートを通して家族の気持ちに触れ、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入しているが、行事には参加していない。入居者が彼岸におはぎを作って近隣に届けて、馴染みの関係作りをしている。又近日に利用者の縫った雑巾を地域の小学校に届ける予定で、地域との交流のための努力をしている。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の尊厳」を基本として、利用者の「自由な生活」「個別性の尊重」を重点とした事業所独自の理念が策定されているが地域密着型サービスについての見直しはされていない。	○	地域密着型サービスの役割を理解し、「地域の中で交流を持ちながら生活すること」を意識した理念を、既存の理念に加える事を検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に管理者から理念についての話しをしている。毎日の申し送り時や月1回開催の処遇会議等で運営理念に触れ、管理者・職員は共に確かめ合いながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しているが、地域の行事等への参加はしていない。入居者がお彼岸におはぎを作って隣近所に届けて顔馴染みの関係を作ったり、雑巾を縫って地元の小学校へ寄付する準備もすでに出来、近日に届ける予定で、地域との交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義とその活用について、管理者や職員は会議等で話し合っているが、今回の自己評価は管理者とホーム長で作成した。	○	自己評価・外部評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能になり、サービスの質の向上につながるので全職員で取り組んで欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに運営推進会議は1回開催しただけである。地域住民の方や行政関係者の日程等の都合で会議の開催が困難であった。	○	運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割等を説明して理解を深め、積極的に参加してもらえるよう働きかけをして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所と市町村担当との連携はあまり見られない。	○	地域密着型サービスでは、介護の現場や利用者の課題解決のためには市町村の理解や支援が必要な事が多い。出来るだけ市町村に出向きホームの実情を報告する等、積極的に市町村との関係作りに取り組むことを期待する。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行しており、その中に各利用者のホームでの様子等、コメントを添えて、請求書と一緒に家族に送っている。又家族の来訪時には写真などを見せながら日頃の暮らしぶりや健康状態について報告しており、来訪されない方には電話でお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に話の出来る雰囲気作りに留意している。家族にアンケートを行なって、家族の要望などは、会議等で話し合い運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努力している。新しい職員が入る場合は、採用時に一対一で入所時研修を行い、認知症や利用者に対する言動等について説明し、現場においては先輩が適切なサポートをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を実施して、研修の機会を作るように努めている。事業所外で実施されている実践者研修・実践リーダー研修・感染症対策研修等に参加し、会議等で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、連協主催の研修会に参加したり、近隣グループホーム間で相互訪問をしている。今年度、管理者は連協南部ブロックの長を務めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスからの入居の場合はある程度職員とも馴染みの関係にあるが、在宅からの場合は事前に面接に伺ったり、本人や家族に見学してもらい、本格的な利用に移っていきけるように支援している。管理者と職員は家族の情報をもとに、利用者が安心して生活できるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという事を職員は共有しており、利用者に教えてもらう場面が多い。おはぎの作り方や昔の歌を教えていただいたり、ゲームを一緒に楽しむなど、喜びを共にしながら過ごす関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の毎日の言動、特にその時の表情や雰囲気、話した言葉を詳細に生活記録に残しており、意思疎通の困難な方に対しても適切な対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの利用者の計画作成担当者を決めて、まず担当者が家族等の意見を踏まえて計画案を作成、次に管理者がそれに目を通し、その後管理者と担当者と話し合いを持ち、それを基に処遇会議を開催、他の職員の意見も反映させ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3か月に1回の見直しをしている方が大半だが、期間内に見直しのない方も見られる。状態の変化に応じて随時見直しは行なっている。。	○	状態に変化が見られなくても、新鮮な目で本人・家族の意向や状況を確認しながら、月に1回のモニタリングを行い、状況を確認しながら少なくとも3か月に1回の計画の見直しを検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わってのかかりつけ医の付き添い、買い物の同行など必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は多くの場合家族に代わって職員が対応している。身体の状態については家族の来訪時、お便りの中のコメント、電話等にてお知らせしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者が看護師の資格を持っていることもあって、基本的にはホームは「終の棲家」という考えを持っている。重度化した場合の対応は家族の希望や協力医との話し合いにより対応しているが、緊急時は救急車を呼んでいる。入居の時点から終末期のあり方について話し合うよう心がけている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時にプライバシーの保護について説明し、職員は誓約書を書いている。処遇会議や日頃の支援の場において話し合いを持ち、常に言動には配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、利用者本位でその人らしく暮らせるよう支援をしている。食事の片づけを手伝う人、歌を歌う人、お喋りを楽しむ人とそれぞれが自由に過ごしておられるように見受けられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を利用者と職員は一緒にし、共に食事を楽しみ、片付けも一緒にしている。利用者の嗜好を考えたメニューを取り入れることもあり、食べる事の喜びを大切にした対応をしている。外出して外で食事をする機会が少ないので、時には利用者の食べたい物を出前してもらうこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であるが、その日の体調や希望により概ね週に2～3日の入浴支援をしている。希望により気の合った利用者同士と一緒に入浴する事もある。入浴拒否の方には、対応する職員を換えたり、ご自分で身体を拭いてもらう等の工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片付け・食器洗い・草むしり・洗濯物たたみ(約半数の方は自分の部屋に干し、自分でたたむ)・花壇作り・俳句や民謡を楽しむなど、利用者の得意とする場面作りを工夫している。常に「ありがとう」の言葉を添え、感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は毎日散歩に出かけていたが、利用者の身体機能の低下や職員の入れ代わりなどの事情により外出の機会は少なくなった。現在は中庭に出て洗濯物を干すなど、外気に接する機会を作り気分転換を図っている。	○	事業所の事情等もあると思うが、利用者、職員両方にとっても外出は気分転換・ストレスの発散・五感刺激の機会として大切と思われるので、歩行困難な場合でも、車や車椅子の利用で戸外に出るための工夫を期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの必要性や、鍵をかけることの弊害は理解しており以前は鍵をかけていなかったが、飛び出し事故を経験してからに日中も玄関扉は施錠している。	○	鍵をかけない暮らしの大切さについて再考し、外出の癖の傾向や職員の見守り等、その対策について職員会議で話し合いを持つと共に、推進会議を通してメンバーの方々の理解を深めながら地域の人達にも協力をお願いをして、鍵をかけることを常態化しないよう検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに添って、ホーム独自の避難訓練を年に1回している。	○	災害はいつ起こるかかわからない事を踏まえて、消防署の協力を得ながら具体的な災害対策について検討して欲しい。職員だけでは限界があるので、日頃より自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけて、支援体制を作る努力をすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をワークシートに記録しており、職員は共有している。利用者の状態により刻み食にしたり、食事の時間も本人のペースに配慮をしながらの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は家庭的で、台所から食事の準備の音や匂いが漂い、居間には季節の花を飾ったり、七夕飾りをするなど、生活感や季節感を感じられるような配慮がなされている。又中庭には椅子のセットがおかれ、花壇を眺めながら季節の移ろいを感じる事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の作品やダンス・家族の写真・時計等馴染みの物が持ち込まれている。又居住者が大好きという歌手のポスターやカレンダーを用意したり、いつも好んで口ずさんでいる歌の歌詞を貼るなど、それぞれの方が安らぎを覚えるような居室作りを工夫している。		